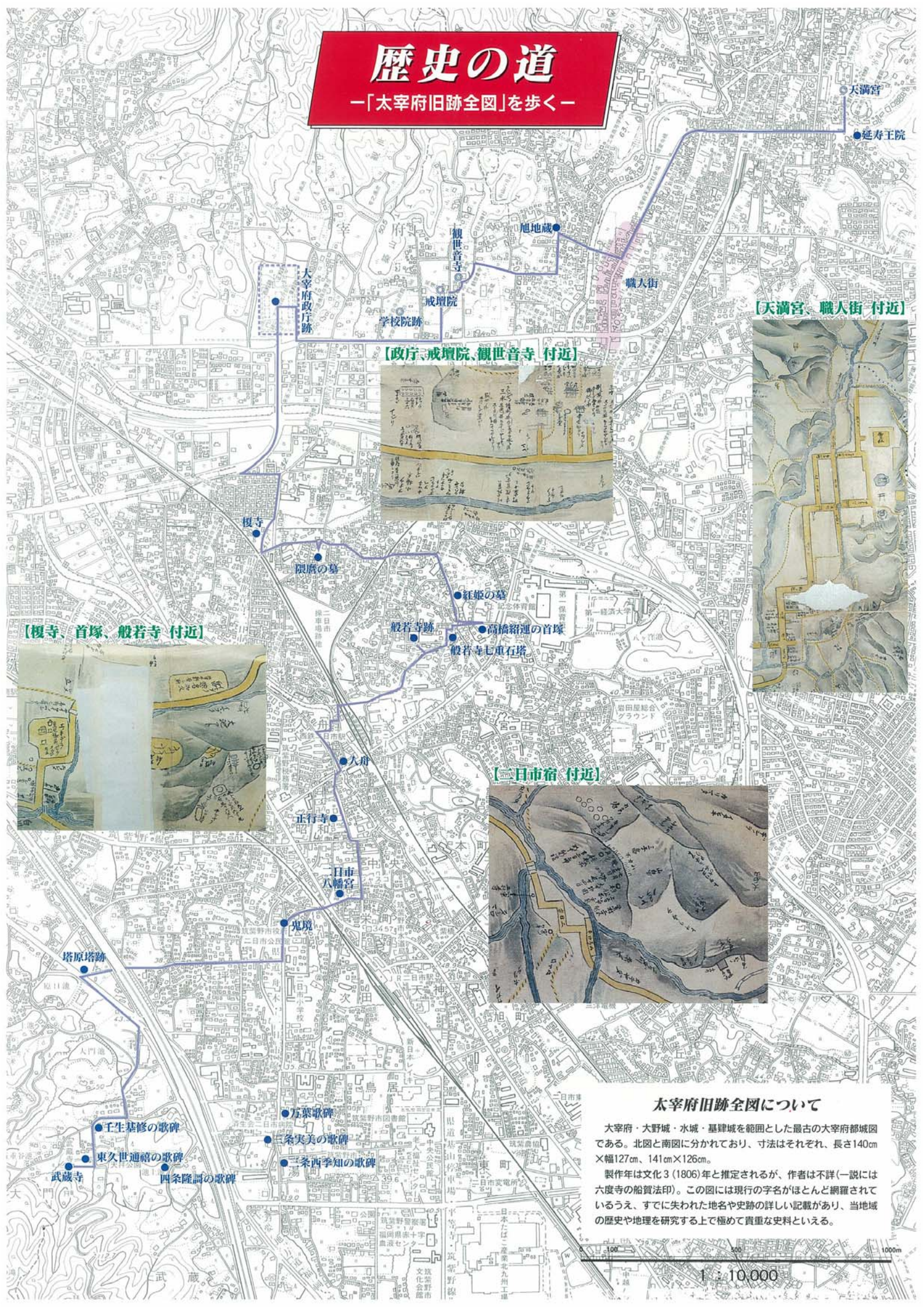


歴史の道

—「太宰府旧跡全図」を歩く—



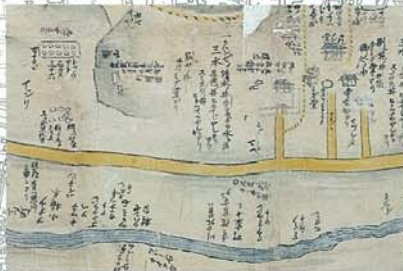
●天満宮

●延寿王院

職人街

[天満宮、職人街 付近]

[政庁、戒壇院、観世音寺 付近]



[櫻寺、首塚、般若寺 付近]



[二目市宿 付近]



太宰府旧跡全図について

大宰府・大野城・水城・基肆城を範囲とした最古の大宰府都城図である。北図と南図に分かれており、寸法はそれぞれ、長さ140cm×幅127cm、141cm×126cm。

製作年は文化3(1806)年と推定されるが、作者は不詳(一説には六度寺の船賀法印)。この図には現行の字名がほとんど網羅されているうえ、すでに失われた地名や史跡の詳しい記載があり、当地域の歴史や地理を研究する上で極めて貴重な史料といえる。

0 100 200 300 400 500 600 700 800 900 1000m

1 : 10,000

だざいふてんみくう
〈太宰府天満宮〉



平安時代、政争により大宰府に左遷され、
病苦と失意のうちに亡くなった菅原道真の
菩提寺。創建以来、学問・詩文の神として
天皇や宮廷貴族の保護と信仰をうけた。
江戸時代には「さいふ詣り」の流行により
全国から多くの人々が訪れた。

えんじゆおうしん
〈延寿王院〉



太宰府天満宮を取り仕切る大島居家が宝
暦4（1754）年に時の桃園天皇から受け
た院号で、現在の宮司家の居所である。幕
末に尊皇攘夷派の三条実美ら「五卿」が留
留し、西郷隆盛、高杉晋作ら多くの志士が
集まった場所でもある。

あさひじ ぞう
〈旭地蔵〉



戦国時代まで太宰府にあった横岳崇福寺
を創建した堀慧の墓との伝承がある自然石
が祭られている。「旧跡全図」には「タン
エノトウ」と記載され、江戸期には供養塔
でも建っていた可能性がある。福岡市東区
千代の旭地蔵尊はここから分霊されたもの
である。

かんぜおんじ
〈観世音寺〉



天智天皇が九州の陣中で亡くなった母
斉明天皇の冥福を祈るために発願。八十余
年の歳月をかけて、壮大な伽藍が完成し、
九州の寺院をまとめる「府大寺」として栄
えた。境内の宝蔵には平安から鎌倉時代の
仏像があり、なかには5mを越す巨像もあ
る。

かいだんいん
〈戒壇院〉



観世音寺の子院49院のひとつで、下野
の栗師寺、大和の東大寺とあわせて三戒壇
といわれ、僧になるための受戒の場所であ
った。元禄16（1703）年、観世音寺より
分離し、現在は聖福寺に属している。また
建物は平成6年に修復された。

がっこういんあと
〈学校院跡〉



古代、大宰府に置かれた官人（役人）の
養成機関。明・経・算・医の三学科があり、
薩摩・大隅・日向を除く管内六国二百余名
の学生が集った。ここで学んだ学生の中に、
道真を「文道の祖」と慕い、安楽寺に幾度
となく足を運んだ者も少なくなかったであ
らう。

だざいふせいしやうあと
〈大宰府政庁跡〉



663年の白村江の敗戦により那津官家を
当地に移して政庁とした。50名の官人を
置き9国2島を統括。発掘により3期に及
ぶ遺構が確認されており、II期（8世紀）・
III期（10世紀）は朝堂院形式で東西110.7m、
南北211mの範囲に建物が配置されていた。

えのき であら
〈榎寺〉



菅原道真が大宰権帥に左遷されたとき居
住した政庁の南館にあった場所である。治安
年間（1021～24）に都督惟憲が道真を哀れ
み寺を建てたのが榎社（寺）のはじまりとい
われる。

くままる はか
〈隈廬の墓〉



父道真と共に九州に下り幼くして亡くな
った隈廬の墓。道真の失脚により子達も各
地に流されたが、幼児の隈廬と紅姫だけは
同行を許された。隈廬は辛い生活の中まも
なく病死し、心の支えを失った道真も後を
追うようして亡くなった。近くに紅姫の
墓もある。

たか はしやうらん くびづか
〈高橋紹運の首塚〉



紹運は岩屋城（太宰府市）の城主。
天文14（1586）年、島津氏によって攻め
られ、城主以下700余人全員が討ち死に
した。首塚とは首実験ののちに葬ったもので、
築かれたのは幕末ころらしい。昭和59年、
筑紫野市指定史跡となった。

ほんにやじ あと
〈般若寺跡〉



筑紫大宰であった蘇我日向が白雉5
（654）年に孝徳天皇の病氣平癒を祈って
建てたといわれる寺跡。大宰府を望む丘陵
上に位置しており、今は塔の心礎と鎌倉時
代につくられた七重石塔が往時の面影を伝
えている。

いり ふね
〈入舟〉



江戸時代、鷺田川と御笠川を利用して博
多川端まで運河を堀り、30俵積みの舟で
米を運送したことが地名の由来である。寛
延3（1750）年、二日市～下大利、瓦田～
筒井～井相田～板付～下壱粕～川端のル
ートで運行されたが、運河の維持費がかかり
すぎるため、13年ほどで廃止された。

しやうぎやうじ
〈正行寺〉



旧二日市宿の下町のある浄土真宗の寺院。
竹原山という号は、文禄2（1593）年肥
後国阿蘇家の一族である竹原主水種善（了
圓）によって創建されたことによる。現在
の本殿は、防火のため鉄筋コンクリート造
りとなっている。

ふつ かいちちまんくう
〈二日市八幡宮〉



祭神は応神天皇、神功皇后、玉依姫命の
三神。天文14（1586）年の島津氏の侵攻
を伝える大銀杏は、筑紫野市の天然記念物
に指定されている。

とうのぼるとうあと
〈塔原塔跡〉



県道5号線（通称）横にある巨大な塔心礎
は「塔原」という地名の由来になっている。
8世紀初頭以前に建立されていた太宰府地
方最古の寺院で武蔵寺の前身という説が有
力である。

ぶさうじ
〈武蔵寺〉



天台宗の古刹。筑紫大宰帥として赴任し
た蘇我日向臣身刺の創建ともいわれる。
『梁塵秘抄』や『宇治拾遺物語』にもみえ、
平安時代末期～鎌倉時代初頭には大伽藍を
誇る大寺であったことがわかる。境内は県
指定史跡。